



認定 NPO 法人 C.P.I 教育文化交流推進委員会

発行所：C.P.I.スリランカ事務所

Mahindarama Road, Etul-Kotte, Kotte, Sri Lanka

日本本部：東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel: 0422-49-3808

E-mail: cpimate@gmail.com

URL: http://www.cpi-mate.gr.jp

ホームページ <http://www.cpi-mate.gr.jp> URL English <http://cpimate.com>

教育支援 25 年記念チャリティーコンサート

岡村喬生氏熱唱

平成元年に開始した C.P.I. の教育支援プログラムの 25 周年を迎えて、オペラ歌手の岡村喬生さんの協力により、チャリティーコンサートが、東京銀座・王子ホールで開かれました。

岡村氏は C.P.I. の教育支援のやり方に深く賛同し理解を示して下さりました。「活動資金集めのきっかけとなれば嬉しい」と言われ、ご本人は、快く、出演してくださいました。

会場の 350 席は会員や協賛者で満席に埋まり、感激に満ちたコンサートになりました。

ウイーンやイタリアの歌に交え、日本の民謡などをアレンジした歌声は 83 才を思わせない声量で会場は賞賛の拍手に湧きました。歌の合間のトークも楽しくピアニストの伊藤康英氏とのコンビネーションも素晴らしく、観客の皆さんから、「若いときよりも繊細な歌声で感動した」「こんな胸の高まるコンサートになるとは。期待以上だった」と喜びの声を聞くことが出来、主催者冥利に尽きるひとときでした。

多くの方々から協賛金を戴き、感謝申し上げます

ご理解いただいた方からの寄付金や CD の売上げ等、2,465,675 円の協賛をいただきました。経費 1,244,771 円を差引きました 1,220,904 円は、スリランカに於いてタミール語の通訳者養成学校の準備に使わせて戴こうと、事前協議をしております。シンハラ族とタミール族の間のコミュニケーションは、実際に危ういものがありますので、それを解消することで平和構築に役立てたいと考えています。



熱唱する岡村喬生さん(ピアノ:伊藤康英氏)



満席の会場

岡村喬生氏の略歴および御出演の挨拶

東京に生まれ、バスバリトンの歌声で国際的なオペラ歌手として世界に名を知られています。オペラ『蝶々夫人』の舞台上で正しい日本像を描く運動をされる等、精力的に音楽活動をされています。

今回は、C.P.I. 理事の大山利雄氏との、ロータリーアン同志の御縁でチャリティーコンサートが実現しました。ご本人の舞台挨拶を紹介します。

「今日は、教育支援をされている団体を応援するチャリティーの日ということですから、遠く海の向こうの子どもたちに聴かせたい想いを込めて気持ちよく歌うことができました。よい機会を戴けてありがとう」。有難うございました。

五つの世界遺産見学と里子たちとの交流

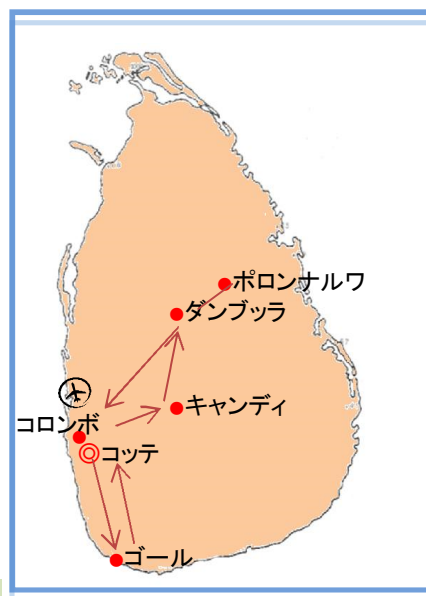
★★★★里子交流ツアー2014 報告★★★★

C.P.I.理事 牟田慎一郎

今回の参加者は、九州地区より3名、関東地区より2名の計5名でした。(スケジュールは後記)

それぞれ、成田と福岡よりソウル(仁川)へ集合し、深夜発の韓国航空でコロンボに向かい、翌早朝コロンボ空港に到着。一旦、スリランカ教育文化センター(SNECC)へ立ち寄り、軽食と紅茶をいただきながら休憩後、南のゴールへと向かいました。

従来だと3,4時間はかかっていましたが、スリランカ初的高速道路ができ、約1時間半で行けるようになり、日帰りもできるようになりました。



一路、世界遺産ゴールへ

■結婚式に参列

私の友人から、親戚の結婚式があるから参列しませんかという誘いがあり、みんなでゴール近くの高台にあるホテルへ。花嫁と写真をとったり、美味しい料理をいただいたりして、スリランカの結婚式を楽しく体験しました。

■世界遺産「ゴールの旧市街と要塞」見学

ポルトガルによって約350年前にゴールの海岸に沿って建設された城塞は、当時を彷彿とさせ、私たちに「このまま歩いて行こう」と思わせるほどでした。この日は、コッガラビーチホテルへ宿泊しました。



里子との対面で感激

■里子との対面

翌29日は、ゴールからコロンボへ戻り、SNECCでそれぞれの里子と対面し懇談した。SNECCの皆さんの通訳で、楽しい対話が続きました。この日は、改装なったコロンボのインド系のホテル「タージサムドラホテル」宿泊しました。



現在の里子と卒業した里子たちが沢山集まってくれました。父兄同伴の里子、子連れの里子もみんな感激の出会いで、時間の経つのを忘れて語らいあいました。

■SNECC 日本まつりに参加

30日は、SNECCで学ぶこどもたちが一堂に会し、一年間の学びの成果を披露する「日本まつり」に参加しました。

日本語の筆記テスト、日本語スピーチ、漢字、生け花、折り紙、絵画などのコンテストが行われ、私たちは、審査員を務めました。お昼は、ボランティ

ア参加の京都産業大学の学生たちとともに、お好み焼きとカレーを参加者に提供、そのあと野外ステージで、民族衣装を着た子供たちが踊りや歌で、私たちを楽しませてくれました。

私たちも学生たちと一緒に「ふるさと」を歌いました。



■ベランウェラペラヘラ祭り鑑賞

夕方 7 時少し前に SNECC を出て、ペラヘラ祭りの出発点であるお寺を訪問した。お寺に迎え入れられ、紅茶をごちそうになりました。

お寺の周りには、夜店や移動式の遊園地や見世物小屋が出店し、とくに人力の観覧車には驚かされました。10時半過ぎに予約席に座り、待つことさらに 1 時間。ようやくペラヘラ祭りが始まり、たくさんの踊り手とともに着飾った象が行進して来ました。終わったのは、12 時 40 分、就寝は、2 時半ころになりました。



一番大きな象、風格も衣装も一番でした

■象の孤児院見学

31 日は、朝 7 時半過ぎにホテルを出て、ピンナワラの象の孤児院を見学しました。象の水浴びも見ることができました。途中紅茶のお店で買い物したり、紅茶をいただいたりして、最後の王朝があった古都キャンディに到着。

仏様の歯をお奉りしている仏歯寺を見学後、ダンブッラへ移動し、湖のそばのアマヤレイクホテルに泊りました。



ピンナワラの象の孤児院



仏歯寺にて



3つの世界遺産を見学

■石窟寺院とシギリヤロック

9月1日は、ちょっと欲張って、3つの世界遺産を訪れました。朝、近くのSNECC ダンプラ保育園を見学後、ダンプラの石窟寺院を見学。天井一面に描かれた仏画には感動させられました。

午前中のうちにシギリヤロックに登りましたが、スズメバチの襲撃を防ぐため、暑い中、カップを着ての登頂となりました（こんなことは初めてでした）。



後方がシギリヤロック

■ポロンナルワの遺跡

午後は、第二の王朝があったポロンナルワの遺跡を見学。その広大な仏教遺跡に施された工夫はただただ関心するばかりでした。



ポロンナルワ遺跡

■アマヤレイクホテルで CPI 里子に遭遇

フロントで働く女性が、私たちの名札を見て、「私もCPIの里子でした」と名乗り、一緒に記念写真（右）を撮りました。名前をLakshani Dissanayakeさんと言い、その後、Facebookで交信を続けています。嬉しいことです。



■帰国

9月2日は、スリランカ最終日。アマヤレイクホテルを後にして、コロンボへ戻り、買い物へ行ったり、SNECCで休憩した後、スリランカ2つ目の高速道路で、空港へ向かい、4時半過ぎに到着。午後7時の飛行機で、帰路につきました。

■実りある交流ツアー

今回のスリランカ訪問で、ボランティア活動で来ている京都産業大学の学生たち、福岡からJICAの隊員として派遣され活動している中村菜々子さん、センターで継続してボランティア活動している中林瞭太君など、志ある若者たちに会え、明るい将来を垣間見れたことも収穫となりました。

1週間の短いツアーではありましたが、里子への対面だけでなく、5つの世界遺産を巡り、運よくペラヘラ祭り鑑賞、結婚式への参列、学校訪問などのおまけもついて、中身の濃いものになり、参加者みんなが満足できる内容のツアーとなりました。

【スケジュールの概要】

日 程	内 容
8/27 (水)	17:00 成田発 (大韓航空) ソウル経由 21:05 福岡発 (大韓航空) ソウル経由
8/28 (木)	04:20 コロンボ着 空港→SNECC 休憩 →結婚式参列→ゴールへ移動
8/29 (金)	ゴール→コロンボ SNECC 訪問、里子と面会
8/30 (土)	SNECC にて日本祭りに参加 夜、ベランウェラペラヘラ鑑賞
8/31 (日)	象の孤児院見学 キャンディ観光
9/1 (月)	ダンプラ石窟寺院観光 シギリヤ観光 ポロンナルワ観光
9/2 (火)	ダンプラ→コロンボ (ショッピング) 19:00 コロンボ発 (機中泊)
9/3 (水)	ソウル経由 9:20 福岡着 12:30 成田着

来年も里子交流ツアーを企画する予定です。たくさんの会員、ご友人の参加をお願いします

何もないけど幸せです

クルネーガラのニルカさんをたずねて

(寄稿) 千葉 里親 KY

クルネーガラの町はコロンボの北東、約 100kmにある。14C 前半に 48 年間だけシンハラ王国の首都があったところだ。今も大きなバスターミナルを持つ交通の要所であり、この地域の中心都市になっている。町の中心部にある市場からは毎日大量の野菜が流通しているという。

クルネーガラ・センターのセンター長はヒダワ・デワナダさんと言った。とても面倒見のよいお坊さんである。センターで初めてニルカさんを紹介された時、付き添いのおばあさんは心配そうに我々を見つめていた。ニルカさんは67歳になるおばあさんと二人暮らしだった。彼女は小さい頃に父親をなくし、その後、母親は再婚して家を出て行った。そんな彼女にインタビューした時である。

「今までで一番悲しかったことは何ですか？」そう言ってしまうから私は“はっ”とした。彼女に辛い過去を思い出させてしまったに違いない。私は後悔しながら彼女の返答を待った。彼女は少し考えていた。そしてゆっくりと言った。「別に悲しかったことはありません」。彼女の返答を聞いて私は少なからず動揺した。全く予想せぬ回答であったからだ。短い16年間の彼女の人生にも悲しい事が沢山あったはずだ。私はもう一度彼女に尋ねてみたい衝動にかられたが出来なかった。彼女は悲しみを忘れようと努力しているのか、あるいは本当に忘れてしまったのか、あるいは彼女に起こった様々な出来事は、そんなに悲しい事ではなかったのか、どのように理解していいのか私には分からなかったからだ。質問の内容を変えてみた。

「今までで一番嬉しかったことは？」ニルカさんは微笑みながら答えた。「CPIの奨学生になれたことです」優等生の回答である。



ココヤシの林の中のニルカさんの家



(愛猫のキティちゃんを抱いてにっこりするニルカさん)

「尊敬する人は？」「援助してくれる日本人です」これも優等生そのものだ。

「何か困っていることはありませんか？」ニルカさんは、はっきりと答えた。

「別にありません。充分足りています」。

何と言うことだろう。彼女はまっすぐ私を見てそう答えたのである。

彼女は、毎朝5時に起きて、朝ご飯の準備をする。足の不自由な祖母のかわりに、離れた所にある井戸まで水汲みに行くのも彼女の仕事だ。スリランカでは水がめで水汲みが出来ないとお嫁に行けない、と言われている。その点、彼女は、もうすっかりお嫁に行ける資格を掴んだようだ。

彼女の家は粗い土壁で屋根はココヤシの葉で葺いてあった。電気は火災の危険性があるということで、許可になっていない。数学と理科が好きだと言う彼女は我々に数枚の表彰状を見せてくれた。学校では世話好きでみんなの人気者だとセンター長のデワナダさんが言う。

彼女の机にもなる大きめの台には、何冊かの教科書とノート、何かの液体が半分ほど入ったビンや小さな紙袋などが散らかっていた。お別れをする時、おばあさんに尋ねてみた。

「どんな大人になってもらいたいですか？」「皆さんに会えたことが嬉しくて言えません」そう言って彼女はうつむいた。彼女は、我々に会えた喜びで胸がいっぱいで質問について考えることが出来ないと言っているのだらうと私は思った。「いいお孫さんを持ってよかったですね。おばあさんも身体を大事にして下さいね」私は通訳にそう言って欲しいとお願いした。そして別れの会釈をすると、おばあさんは手を延ばし、私の両手を抱え込むと大きく顔をゆがめた。

帰りの車の中から手を振りながら私は「幸せは金では買えない」、そんな諺があったことを思い出していた。

(2004年の投稿より掲載しました)

里親さんと里子を結ぶ絆

文通のことをお話しします



SNECC 事務局長 M.チャンダシリ

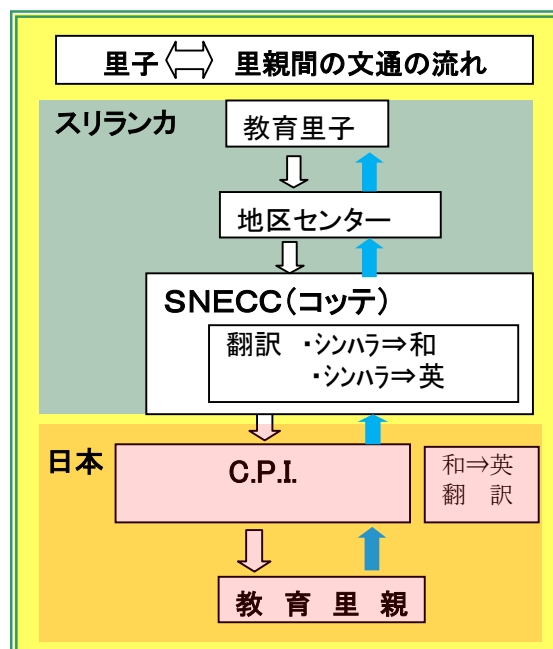
教育里親と里子の間で文通を始めたきっかけ

C.P.I.とスリランカ日本教育文化センター(SNECC)は、日本の教育里親さんの協力で教育里子制度を実施し25年になります。C.P.I.の小西会長は、“ひとりの教育里子”と“ひとりの教育里親さん”を結んだ援助のやり方を、日本に広めるために頑張ってきました。私たちがともに取り組んできた活動はいろいろあります。スリランカのセンター本部の建物をつくり、子どもたちの学習活動をひろげました。両国で、互いの生活を研修するプロ

グラムを行ってきました。また、早い時期から、教育里親—里子間の文通を始めました。『文通』のきっかけは、子どもたちが、自分自身の手で自分たちのことを語り、援助がどのように役立っているかを教育里親さんに知らせるほうがよい、と考えたからです。そしてもちろん、日本の皆さんと子どもたちとの、やさしい言葉を添えた絵や写真の1枚からでよいから、『温かい心』を交流して欲しいと願ったからです。

学校を卒業することと、手紙は、里親さんへの贈り物

里子に教育の支援をしてくださっている里親さんにとって、里子からの手紙は大変うれしいものでしょう。ですから、里親さんからの奨学金の援助に感謝の意を述べ、少しでも恩返しできることは、手紙を書くことだと言い聞かせています。里親さんにお金や物をお願いしないように言ってあります。毎日の生活で何か新しいことがあれば書くように、また学校生活で特別なことがあれば書くように、自分のことをよく知って戴けるように書くように、と言っています。手紙を書くことが苦手な子どももいますが、里子には年3回手紙を書くように指導しています。「年間行事表」で決めた日までに、所属する地域センター長に手紙を渡して、その後手紙のやり取りは右の図のような流れで行うようにしています。里親さんからもお手紙を書いてあげてください。



まだまだ上手くいかないこと、課題がたくさんあります。

以前はすべて英文で書くように指導していました。英語の勉強にもなるからです。しかし、思ったことを自由に英語で書ける子どもは少なかったので、自分の書きやすい言葉で書かせて、私たちの翻訳ボランティアが英語あるいは日本語に翻訳してお送りするように、やり方を変えました。しかし、まだまだ、いろいろと問題があります。

里子の事情によっては書けない内容もあるでしょう。翻訳者の能力の問題で、詳しく訳せないときもあります(この問題の解決は簡単ではありません。仕事の創出を伴わないと、能力向上の意欲を引き出せません)。

里子の手紙が里親さんに渡るまでに、翻訳の遅れで、2〜3ヶ月かかるときもあります。里親さんが直接センターに送られた手紙に里子の番号が書かれていないとき、名前だけではわかりません。また里親さんが直接に都市部以外の

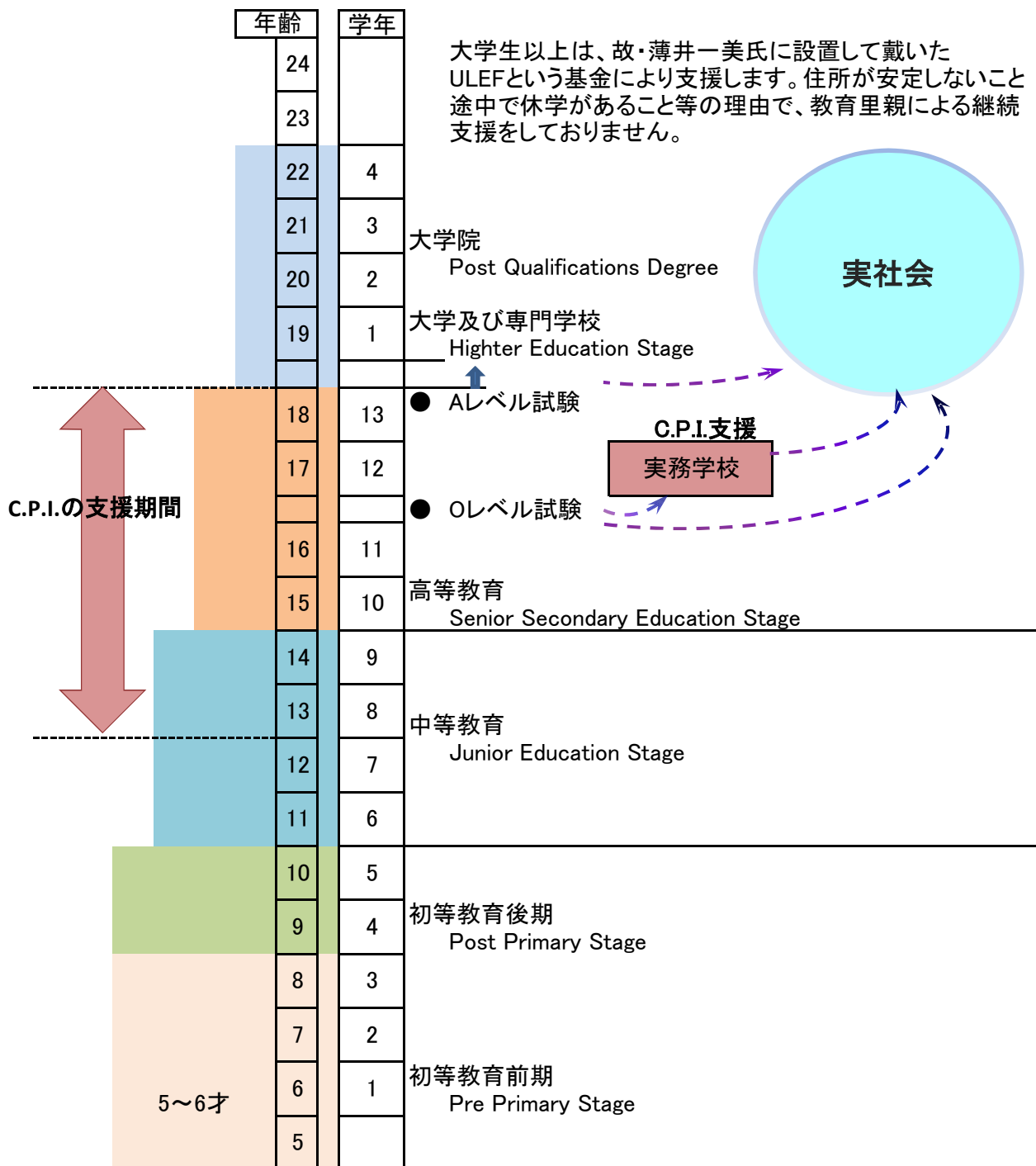
里子に手紙を出し里子に到着しないこともあります。本人同士の文通はなかなか難しいものですから、課題はありますが、上の図の流れで速く届くよう、皆さんと一緒に考えましょう(英文翻訳に統一するか…)。環境や文化、宗教、社会が異なる2つの国にいる里親さんと里子を結ぶために、文通のほかに考え出されたのが、里親—里子新聞です。ですから、できるだけ文通を行いつつ、この新聞を里子からの手紙の代わりと思われて、スリランカの子どものことを想ってくだされば幸いです。ありがとうございました。

あなたの里子は何年生でしょうか？

(里子の年齢、学年は里子報告書に記載されています)

教育制度とC. P. I. の教育支援の実情をお知らせします。

スリランカの教育制度と子供たちの進路



(注) Oレベル試験: Ordinary Level Exam. 全国共通試験で進級するか、実務学校に行くか進路が分かれる。

Aレベル試験: Advanced Level Exam. 全国共通試験。科目は選択制で得点によって大学への進路が限定される。2回の受験機会が与えられる。

実務学校: 就職を前提とした職業訓練を受ける(経理、パソコンなど)

このように教育支援をしています

みなさまの温かい支援によって、多くの子どもたちが学校に通っています。
SNECCは、みなさんの里子たちの成長に責任をもった援助活動をしています。



**どうしても、申し上げたいことがあります。
里子にお金や高価なものを贈らないでください。**

里親の皆さんが里子たちのことを愛する気持ち、援助しようという思いを私達はよく理解しております。時々、里親さん達がスリランカにいらっしゃったときや、あるいは日本から直接、特別に贈り物をされることがあります。これは里子への深い愛情、生活状態を察しての親切心からしておられることは間違いありません。ただし、こうした特別な贈り物はよい結果を生むこともあればその反対もあります。里子への贈り物が原因で、里子が勉強を続けなくなったり、私達はすべての里子を平等に扱っているのですが、そのコントロールが取れないようになり、里子と里親さんの仲がこじれてしまったり、といったことがこれまでもありました。

ですから里子の為になにか特別な贈り物や援助をしたいと思われるときには、事前にC.P.I.を通してスリランカ日本教育センターの私達にご相談ください。そうすれば、その援助はすべきかどうか、またどのような形ですればよいかということのアドバイスを致します。どうぞ宜しくお願いいたします。

事務局長 M・チャンダシリ

奨学生の認定

来年9年生になる新奨学生の調査を9月から開始します。10月には各地区センターを回り、里子との面接を行って、来年度の奨学生の継続について調査を行い、C.P.I.本部との調整を行います。

12月に最終選考を行い、新9年生の選考と継続奨学生の決定が行われます。

奨学品の授与

12月末から1月にかけて奨学生の認証式と奨学品の第一次配布が行われます。

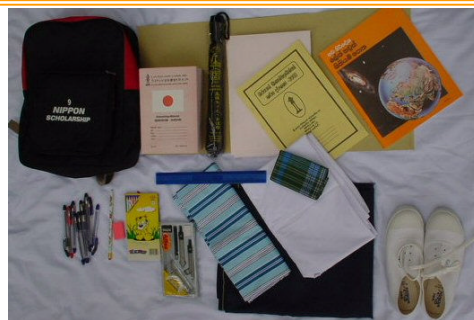
厳しい就学報告ノート

奨学生は①就学状況と試験の結果などを報告すると同時に②「地区センターから受領した金額」の明細をコッテ・センターに連絡することが義務付けられています。成績は校長先生の証明が必要です。センター長の評価も記入されて、コッテ・センターに報告されます。

お金で支給されること

里子たちには、地区センター長から支援される現金は下記の通りです。

1. 補習学習援助費: 100~400Rs/月
2. 日本語クラス授業料: 100Rs/月
3. 学生服仕立て代 (男子 250-400、女子 200Rs/年)
4. 靴代 : 400Rs/年
5. 修学旅行費: 400~500Rs/年
6. 写真代: 75Rs/年
7. 医療費: 重病の人だけに支給。
手術の場合 5000Rs



年度始めに支給される学用品の数々

年に一度支給される学用品

学生服 (服地)	2 着
普段着 (服地)	1 着
学生カバン	1 個
傘	1 個
ノート	24—30 冊
ファイル	3 個
世界地図	1 冊 (初年度のみ)
製図用道具	1 式 (初年度のみ)
色鉛筆	1 式 (初年度のみ)
スリランカ白地図	10 枚 (9~11 年生)
世界白地図	10 枚 (9~11 年生)
その他 (消しゴム、ハサミ、鉛筆など)	

教科書は、国から支給されますが、終了時に返却しなければなりません。子どもたちは、後輩のために汚さないように大切に使います。大事なことは、記憶するか、ノートに書き写しておかなくてはなりません。子どもたちのノートは、きれいに整理されて書かれています。